

科目名	ゼミⅡ	Subject	SeminarⅡ
サブタイトル	社会人基礎力の育成		
科目基本情報			ディプロマポリシー「主な学習効果」
開講年次	開講時期	必修／選択	DP1 知識・技能 DP2 主体的行動力 DP3 課題解決能力 DP4 多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力 DP5 日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力 DP6 美しく生きる力を実践できる能力
2年	通年	必修	
授業形態	単位	時間	
演習	1単位	30時間	
ゲストスピーカー招聘回	なし		◎
教員名	阿部・石川・内野・中根・平田・河邊・過足・山本	メールアドレス	ayako.ishikawa@・・・
教員の略歴	右記 URL より一覧を確認してください。【 https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/ 】		
実践的教育	×		
オフィスアワー	別途一覧をご確認ください。		

科目の概要																	
通年の中で実施日は年度初めに classroom にてお知らせします。 社会に出る前の自己形成と自己成長ができるように、ゼミ授業やイベントを通してディプロマポリシーに沿った行動や協働を実践していき、社会人基礎力を育成します。 美道プロジェクトと連動し、多様な価値観を理解します。 サンクスデー準備と実施に向けて利他的な振る舞いを身に付けます。 各科目から得られる「学び」を振り返り、主体的な行動と自己成長に繋がります。 日頃の学生の課題・問題解決に向けて、個人面談や個別指導を通して社会人として必要な自己管理や課題解決の成長に繋がります。																	
授業方法																	
対面		オンライン		ハイブリッド		ディスカッション		プレゼンテーション		作品制作							
○		-		-		あり		あり		-							
授業の目標と関連するディプロマポリシー（DP）																	
ディプロマポリシー		授業の目標															
DP2		学生生活や学事イベントの中で役割を考え、行動できる。															
DP3		学修からディプロマポリシーに沿った多くの「気づき」を得ることができる。															
DP4		イベントを通してディプロマポリシーに沿って協働できる。															
DP6		ディプロマポリシー1～5を複合的に捉え、自分や他者が豊かな人生を送るための考え方を説明できる。															
教科書・教材																	
教科書		学修成果カルテ資料、教員作成資料															
参考文献		必要に応じて提示															
各自準備教材		スマートフォン及びPCまたはタブレット															
評価方法																	
筆記試験		実技試験		受講態度		小テスト		レポート		プレゼンテーション		作品		課題		その他	
-		-		20%		-		20%		20%		-		30%		10%	
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。																	
課題（試験やレポート）のフィードバックの方法																	
ミニ課題については授業内で総括コメントを返します。 学習成果カルテの半期ごとのフィードバックは個別に行います。																	
履修上の条件・注意																	
通年を通して 15 回の授業を実施します。前期と後期の面談日に関しては、該当日を別途お知らせします。 通年の中で私語、居眠り、飲食、私的な携帯電話の使用、授業の妨げ等マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。 自分の意見や他者への質問を積極的に出して授業参加することを望みます。 ※何らかの社会的な状況変化等の諸般のやむを得ない事情により、授業方法、授業計画、評価方法等を変更する場合があります。																	
本科目履修と関連する資格																	

授業計画				
	授業内容	到達目標	時間外学習（予習・復習）	時間(分)
第 1 回	オリエンテーション 1 年次に取得した科目の振り返り及び履修登録の確認（4 月 1 週）	1 年次の履修の振り返りと卒業時の目標が共有ができる。履修科目受講の目的を述べるができる。	課外活動参加や事前準備 DP1～6、学習成果カルテの内容を再確認しておく。 各履修科目のシラバスを熟読する 履修科目毎に修得目標をイメージする。 課外活動に参加する（通年）	120 分
第 2 回	サンクスデーの意義を知る ブース毎のテーマ・実施計画を立てる（4 月 2 週）	お世話になった方へサンクスデー開催について述べるができる。 施術グループになり、行動目標とスケジュールを立案できる。	サンクスデーの意義と自分の役割について考えてまとめる。	30 分
第 3 回	サンクスデーの開始時の流れの練習 受付～オープニング～ブース到着（4 月 3 週）	サンクスデーの流れを体験し、改善点を見つけることができる。	サンクスデー実施の流れを見直す。 自己の「気づき」、他者からの「気づき」を考え、学修成果カルテに記載する。	30 分
第 4 回	サンクスデーのブースでの技術練習（4 月 4 週）	ブースでの技術を実践し、改善点を見つけることができる。	担当の技術練習を繰り返し行う	60 分
第 5 回	サンクスデーの運営方法を試す（5 月）	イベント運営に向けたタイムマネジメントができる。	サンクスデー実施に向けた内容の検討 自己の「気づき」、他者からの「気づき」を考え、学修成果カルテに記載する。	20 分
第 6 回	サンクスデーの技術確認（5 月）	ブース毎に技術の修練ができる 履修科目で得た「気づき」を具体的に述べるができる。	施術する技術の向上のための反復練習 自己の「気づき」、他者からの「気づき」を考え、学修成果カルテに記載する。	20 分
第 7 回	サンクスデー各ブースでの改善と事前準備（5 月）	協働とは何かを理解し、当日を想定した取り組みの中でより良い実施に向けた工夫ができる。	サンクスデーでの自己の役割を再考する。自己の「気づき」、他者からの「気づき」を記録し、を考え、学修成果カルテに記載する。	20 分
第 8 回	サンクスデーの実施① おもてなしと感謝・自己成長の表現（6 月）	おもてなしを通し自己の役割や他者への配慮を適切に選択できる。自己成長と感謝を表現できる。	各ブースでの取り組みの準備時間	60 分
第 9 回	サンクスデーの実施② 知識技能の提供（6 月）	自己の技術や他者への配慮を通してアサーティブコミュニケーションを取ることができる。	各ブースでの取り組みの片づけ時間。	60 分
第 1 0 回	サンクスデー振り返り（レゴ）（6 月）	サンクスデー取り組みから DP の習得状況を確認し、サンクスデーから得た「気づき」を共有できる	サンクスデーを通じて獲得できた DP について「気づき」として記載する。	30 分
第 1 1 回	前期 個人面談（7 月 3 週のうち各自 1 週） 進路先に合わせた知識の理解	。個人面談の中で、出席状況や課題提出状況の改善案が出すことができる。進路先に合わせた知識を選択できる。	曼荼羅チャートを用いて、進路先に合わせた知識を深掘する 「社会人に必要な要素とは」レポートを作成、提出する	120 分
第 1 2 回	PROG の評価と DP の能力の応用 後期の目標（後期初め）	PROG を用いて社会人基礎力と 2 年間の成長を振り返り、自己の習得した DP を適切に活用する場面を想定できる。後期の目標を立案できる。	各履修科目のシラバスの理解度を深め、履修科目毎に修得目標をイメージする。 前期の習得した成果を振り返り、後期に向けての具体的な行動や目標を記す。	30 分
第 1 3 回	後期 個人面談（11 月 3 週のうち各自 1 週） 課題解決に向けた知識の共有	PROG 結果を見直し、具体的な行動について示し、改善できる。 個人面談の中で、出席状況や課題提出状況の改善案を出すことができる。	他者の意見を傾聴し、自分の考えを纏める。 PROG 結果と社会人基礎力から自分の強みを社会で活かす方法をまとめる	30 分
第 1 4 回	学修成果カルテの入力・提出（第 3 回） 修了レポート作成に向けた 2 年間の学習成果のまとめ（12 月）	提出した学修成果カルテを用いて自己の成長の評価をレポートに反映して自分が考える「美しい生き方」を示すことができる。	〈課題〉修了レポート作成 入学後の 2 年間の成長を振り返り、DP との関連を述べ、自己の習得した能力の活用を想定する。	120 分
第 1 5 回	DP6 のステップ 4 を意識し、2 年間で修得した成果を代表者が発表する（2 年生合同ゼミ 12 月最終週）	2 年間の学びを整理し纏めることで、修了レポートを基に自分が考える「美しい生き方」と発表代表者の考えを比較できる。	他者の「美しい生き方」を聞いて自己の「美しい生き方」について再考する。	30 分